

ANNUAL REPORT
事業報告書 2023

NItech Center for Diversity & Inclusion

国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター



多様性を活かした知の創出が望まれる中で、イノベーションの担い手となる女性工学人材の活躍が求められています。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターは、2014年に前身である男女共同参画推進センターを発足させ、2014-16年文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」、2017年-2022年同事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に連続して採択され、九年間に渡って、女性工学人材の活躍推進を行ってまいりました。これらの事業においては、女性研究者が安心して長期的に教育研究に取り組むことができる環境の整備を進めるとともに、本学が長年培ってきた産学連携の実績を背景に、学生から研究員、研究者、研究リーダーまでの全てのステージの女性工学人材を対象に育成と支援を行い、事業終了の2022年度末までに、女性研究者在職比率15%、女性教員管理職15%など、所期に掲げた目標の全てを達成いたしました。

センター発足から10年目を迎えた2023年度は、これまでの事業で確立した取組を継続し、地域の工学人材の活躍を幅広く推進する一方で、女子小中学生、高校生を対象に工学の魅力を発信する事業「工学の扉を開こう」を通して次世代育成にも積極的に取り組んでまいりました。こうした継続的、かつ実効性のある幅広い取組が高く評価され、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」事業事後評価において、本学は、最高評価の「S」を獲得することができました。

このたび2023年度の取組を「2023年度名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター事業報告書」としてまとめました。ご高覧いただき、本学のダイバーシティ推進事業についてのご理解を深めていただくとともに、より一層の充実に向けて、忌憚のないご意見をいただけますと幸いに存じます。

今後とも名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターの事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

国立大学法人名古屋工業大学

副学長・ダイバーシティ推進センター長

井門 康司

目次

I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1	名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	6
2	ダイバーシティ推進事業概要	
	(1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN	7
	(2) 実施体制	7
	(3) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 最高のS評価を獲得	8
3	多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組	8
4	意識啓発	
	ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー	10
5	環境整備	
	「多様な性を包摂する環境構築のために」	
	ー名古屋工業大学の基本理念と対応のためのガイドラインー	11
6	基金・受賞	
	(1) 女性活躍支援基金	12
	(2) 日産財団「第6回リカジョ育成賞」	13

II. 2023年度事業実施報告

1	研究者支援	
	(1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞	16
	(2) 研究支援員制度	16
	(3) 女性研究者研究促進制度	17
	(4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援	18
	(5) 女性研究リーダー養成塾	19
	(6) ライフイベント支援	20

2	産学連携による取組	
(1)	女性技術者リーダー養成塾	22
(2)	産業論	23
3	次世代育成	
(1)	次世代萌芽インセンティブ	24
(2)	全学に向けたダイバーシティ教育	25
(3)	女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」	26
(4)	女子学生団体「彩綾～SAYA～」	27
(5)	女子学生向け夏季オープンキャンパス	27
(6)	モノづくりチャレンジ 「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう!」	28
(7)	モノづくりチャレンジ 「プログラミング体験：micro:bitカーリングチャンピオンシップ」	29
(8)	スーパーサイエンスハイスクール事業への協力	30
4	情報発信	
(1)	女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」	30
(2)	ニュースレター	31
(3)	メディア掲載	31



I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2 ダイバーシティ推進事業概要

- (1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN
- (2) 実施体制
- (3) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 最高のS評価を獲得

3 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組

4 意識啓発

5 環境整備

6 基金・受賞

- (1) 女性活躍支援基金
- (2) 日産財団「第6回リカジョ育成賞」



ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

2017年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2017年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけでなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靭さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

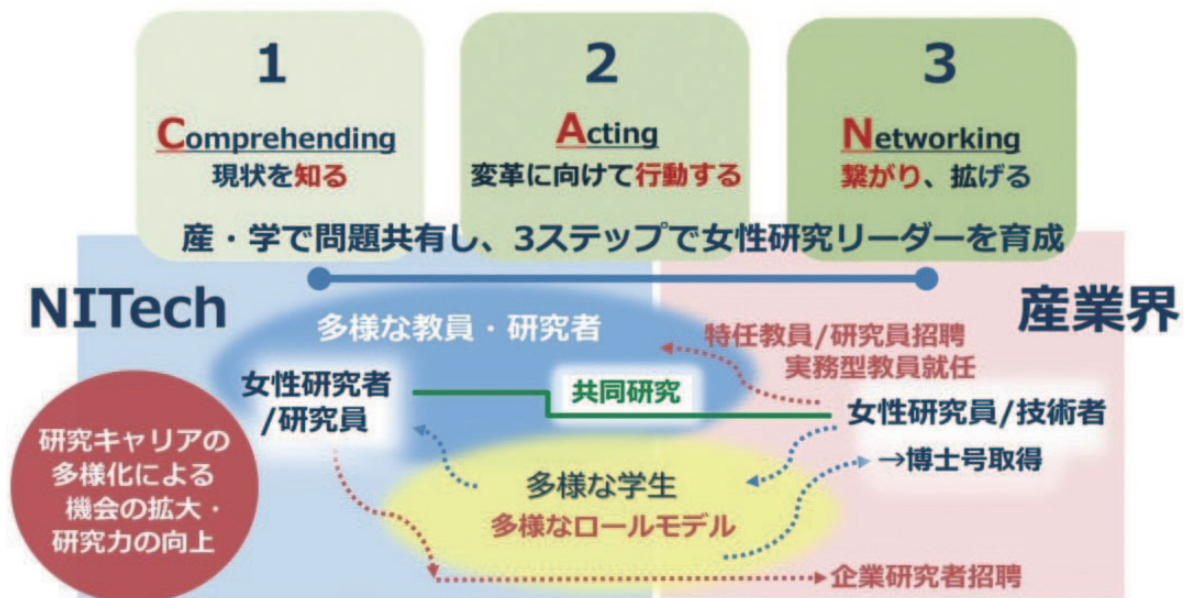
2 ダイバーシティ推進事業概要



(1) 多様性人材育成プログラム NITech CAN

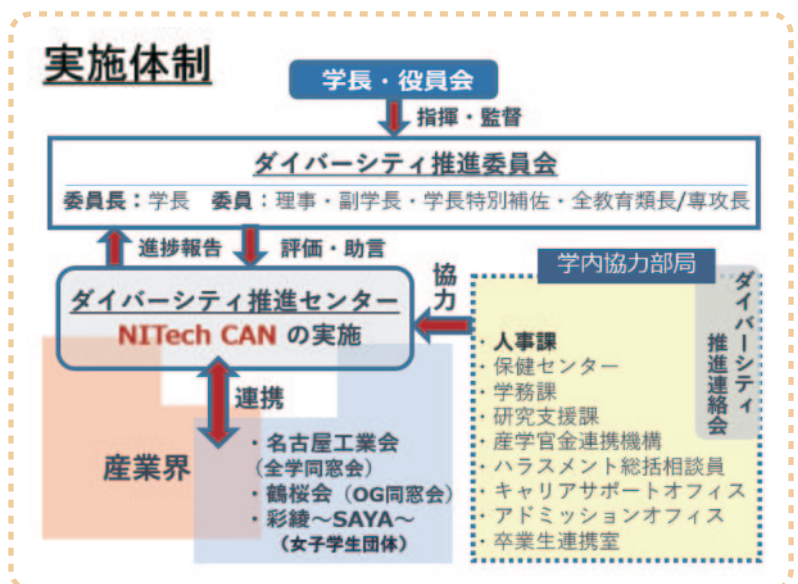
2017年10月1日、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の採択を受け、ダイバーシティ推進センターは「多様性人材育成プログラムNITech CAN」の取組を開始しました。補助事業は2017年度から2022年度の6年間実施され、2023年3月31日に終了しましたが、終了後も取組を継続して実施しています。

「多様性人材育成プログラムNITech CAN」とは、本学が長年培ってきた産学連携の実績を背景に、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る=Comprehending、行動する=Acting、繋がり、広げる=Networking」の3つの指針を産業界と大学が一体となって遂行するしくみです。具体的な取組内容は、次ページで紹介しています。



(2) 実施体制

事業の目的と意義の理解を確実に全学の裾野まで広めるため、学長を委員長とし、理事、副学長、学長特別補佐、すべての教育類長・専攻長を委員とするダイバーシティ推進委員会を立ち上げ、取組の周知と協力体制を築いています。また、学内の啓発セミナーを学務課との連携のもと、FD研究会として開催したり、研究者のための特許セミナーを研究支援課と連携して開催するなど、各部署との連携によりダイバーシティ推進センターの取組の幅を広げました。



(3) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 最高のS評価を獲得

2023年度に、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」は、事後評価を受け、最高評価のS評価を獲得しました。本事業において目標として掲げた、女性研究者在職比率15%、女性教員管理職比率15%をともに達成した上で、女性研究者を代表者とする科研費新規採択率が、事業開始前(2016年度)20.0%に対して2022年度には40.0%と倍増したこと、女性研究者を代表者とする企業との共同研究件数が、事業開始前(2016年度)に対して5.7倍に増加するなど、研究力についても著しい向上が見られたことが高く評価されました。

3 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組

イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。

地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらをC・A・Nの3つのステップで着実に遂行します。

次世代育成

- step 1. **C**omprehending
- step 2. **A**cting
- step 3. **N**etworking

研究者支援

Comprehending 現状を知る

工学女子キャリア形成塾

研究キャリアへの誘導

女性研究リーダー養成塾

共同研究・競争的資金獲得支援

Acting 変革に向けて行動する

中高生の理系選択支援

企業・自治体との連携

ポジティブ・アクション

女性限定公募・上位職登用

リスタート研究費の付与

キャリアを中断した研究者の復帰支援

Networking 繋がり、広げる

OG人材バンク

企業研究者、技術者、院生も参加

女性研究者データベース公開

共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

全学に向けたダイバーシティ教育

正課科目にダイバーシティ教育を整備

スタートアップ助教制度

大学院生の研究キャリア形成支援

研究促進インセンティブ付与

大型科研費獲得、共同研究の促進

ライフイベント支援

ベビーシッターサービス利用補助、一時保育

女性技術者リーダー養成塾

地域産業界と連携



名古屋工業大学女性が拓く未来賞

優れた研究業績を挙げることが期待される学内の女性研究者を表彰することにより、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の発掘と育成を図っています。



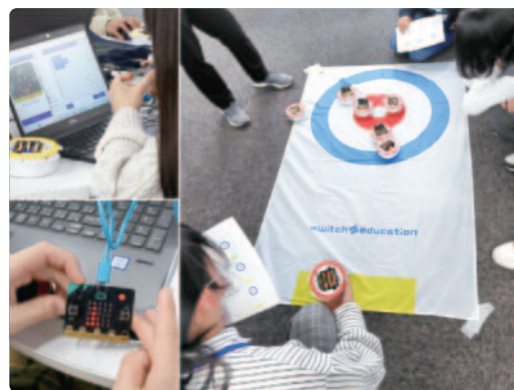
女性研究者データベース

工業大学ならではの研究シーズを持つ本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、名工大の女性研究者の代表的な研究を公開しています。



研究力向上セミナー

女子大学院生・女性研究者のキャリア形成を目的とする研究力向上セミナーを開催しています。



工学進路選択支援イベント

女子児童・生徒が科学やテクノロジーに触れ、科学技術への関心や理数系の学びへの関心を高める機会として、プログラミング・3Dプリンター体験講座を開講しています。



女子中高生進路支援オンラインサイト

2021年度より名古屋工業大学単独主催のサイトとして改変し、新たな動画1本を公開しました。次世代を担う女子学生に幅広い工学の魅力を伝える目的として、常時公開しています。



彩綾 ～SAYA～

女子学生団体「彩綾～SAYA～」は、学科・学年をこえて繋がり、名工大の女子らしく今も未来も輝ける場を作るため、2014年10月に設立されました。



ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー

「共に創る未来へ」

2023年9月20日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」をオンライン開催しました。本シンポジウムは、2023年3月に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の6年間の事業を終了し、本学がこのたび新たな一歩を踏み出すにあたり、重要な課題を皆様と共有する機会として開催いたしました。

ダイバーシティ推進センター加野准教授の司会進行のもと、名古屋工業大学小畑誠理事・副学長の挨拶により開会しました。最初に、ダイバーシティ推進センター加野准教授が本学のダイバーシティ推進事業の事業報告と事業実施期間終了後の今後の取組内容について報告しました。

続いて、「次のステージに向けてのダイバーシティのススメ」と題して、東北大学副学長(広報・ダイバーシティ担当)、附属図書館長、東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野教授 大隅典子氏にご講演いただきました。



東北大学副学長 大隅 典子氏



脳がどのような過程を経て性分化するのかという話題から始まり、歴史的に性差がどのように捉えられてきたのか科学史の文献に触れながら解説された後、性差が軽視され、見落とされたことにより生じてきた弊害と、それらを把握して克服しようとする社会的潮流「ジェンダー・イノベーション」についてお話しされました。講演の後半では、日本の女性研究者の現状を多くのデータで示し、ダイバーシティ推進のために、無意識のバイアスを払拭することの重要性を説かれた後、東北大学の女性研究者活躍推進の先進的な取組について、工学分野を中心に紹介されました。

最後に本学副学長・ダイバーシティ推進センター長 井門康司教授より、講演者、参加者への謝辞が述べられ、シンポジウムは閉会しました。

本学役員、教育類長、センター長等で構成されるダイバーシティ推進委員会委員のほか、学内外から46名が参加しました。参加者からは、「バイアスはないという人がバイアスを持ちがちだというお話は、自分の戒めにしようと思いました。また、ダイバーシティを浸透させる取組には、学内改革のプロセスに通ずるところがあり、参考となりました。」「大隈先生のお話は、もっと時間をかけても聞きたい内容でした。日本の現状分析結果がしっかりとまとめて示されたことで、自分たちの置かれている状況を客観視することができました。」などの声が寄せられました。

- 日時：2023年9月20日
 講師：東北大学副学長(広報・ダイバーシティ担当)、附属図書館長、東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野教授 大隅典子氏
 会場：オンライン(Zoom Meetings)
 対象：学長、本学役員、教育類長、センター長ほか *学内教職員・学生・一般聴講可
 参加者：46名



「多様な性を包摂する環境構築のために」

一名古屋工業大学の基本理念と対応のためのガイドライン

名古屋工業大学は、性の多様性をめぐる本学の諸課題に対する現時点での具体的な対応の方針を定め、全部局での合意形成を図るため、ガイドラインを公開しています。

ガイドラインの詳細については、ダイバーシティ推進センターウェブサイトよりご確認ください。



I. 多様な性を包摂する環境構築のための基本理念

名古屋工業大学は、「これからの社会の平和と幸福への貢献」を基本使命として大学憲章に掲げています。この理念のもと、多様な性が尊重される環境の構築に、責任をもって対応します。

自己決定を尊重します

個人の性自認や性的指向、性別表現の情報やその開示・非開示は、当事者の意思により決定されるものです。本学は、性に関わる自己決定権が、決して他者に侵害されることのないよう意識啓発やハラスメントの防止に努めます。

修学・サービスの妨げを取り除きます

修学・サービスに関わる規定や慣習により、個人の性自認や性的指向の自己決定権が侵害される、または個人に不利益が生じる場合は、本人の申し出により、合理的配慮をし、妨げとなる事柄を取り除きます。

少数者に対する差別を許しません

個人の性自認や性的指向、及びそれらに基づく性別表現に対する差別的発言や行為、並びに、性に関する固定観念に基づく差別的発言や行為を許しません。性に関わる自己決定権の行使、修学・サービスの妨げに関して申し出をしたことにより、本人が不利益を被ることのないよう、全部局において対応についての合意形成を行います。

II. 現段階での具体的対応

総合相談窓口

本学では、性自認、性的指向(SOGI)に関わる相談をダイバーシティ推進センターで受け付けています。ここでは、主に本人や関係者を対象として、本ガイドラインに示した内容を中心に相談することができます。

相談内容によっては、下記に示す学内の他の窓口を紹介して、連携して対応することもあります。連携方法や共有する情報の範囲については、必ず事前に本人と確認した上で進めます。安心してご相談ください。

どこに相談したらよいかわからない場合は、まずは、ダイバーシティ推進センターにお問い合わせください。

【性自認、性的指向(SOGI)に関わる総合相談窓口】

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター
 連絡先：diversity-staff@nitech.ac.jp
 052-735-5279
 場 所：11号館2階

【連携窓口】

学 生	氏名・性別情報について	学務課
	健康診断について	保健センター
	留学について	留学生支援室
	インターンシップ・就職活動について	学生生活課
教 職 員	氏名・性別の変更、通称使用について	人事課

施設・環境について

(1)トイレ

51号館を除くすべての建物に多機能トイレがあり、誰でも利用できます。

また、一部の多機能トイレには、フィッティングボードが設置されています。

多機能トイレには右記のようなマークが表示されています。

(2)更衣室

更衣室の使用について、希望により個別対応を相談することができます。

ダイバーシティ推進センターにお問い合わせください。



6 基金・受賞

(1) 女性活躍支援基金

現代社会においてダイバーシティの重要性に対する理解が深まり、人材の多様性が生み出すイノベーションにますます期待が高まる中、これまで以上に女性工学人材の育成を強化する必要があります。名古屋工業大学は、工学を志す女子学生のキャリア教育を強化するとともに、女性技術者、女性研究者の活躍を促進し、多様なロールモデルを次世代に示すことで、本学のみならず、工学分野全体のダイバーシティ推進に一層貢献するため、2023年4月3日、「女性活躍支援基金」を設立しました。

ご支援いただいた寄附金は、イノベーションの担い手となる女性工学人材の育成、それぞれが個性と能力を発揮できる環境構築のために有効に活用させていただきます。主な用途は以下のとおりです。

1. 女子学生・女性研究者を対象とする研究促進事業
2. 優秀な女性研究者の顕彰
3. ライフイベントと研究の両立支援
4. 女子小・中・高生、及び保護者を対象とする工学進路選択支援事業
5. ダイバーシティ教育研究環境の構築



寄附のお申込み方法

以下の方法にてご寄附を承っております。

- ・インターネット
- ・郵便局・銀行等金融機関からの振込
- ・名古屋工業大学収納窓口(財務課出納係)
- ・遺贈による寄附

それぞれのご寄附申込みの詳しい流れについては、右記二次元コード、又は <https://www.nitech.ac.jp/kikin/donate/> よりご確認をお願いいたします。





(2) 日産財団「第6回リカジョ育成賞」

2023年5月、「工学の扉を開こう!」をテーマに、女子小・中・高生を対象に工学の魅力を発信するために行ってきたダイバーシティ推進センターの一連の取組が評価され、第6回リカジョ育成賞「奨励賞」を受賞しました。

この取組は、2020年度、コロナ禍において大学のオープンキャンパスが中止される中、オンラインで工学部の魅力を女子中高生に向けて発信する目的で「女性が拓く工学の未来」と題して開設したもので、2021年度からは「工学の扉を開こう」と改称し、継続して行なっています。毎年女性研究者や、女子学生によって研究や学生生活、学科での学びを紹介する動画を複数制作してウェブサイト「工学の扉を開こう」で公開してきました。2020年12月の公開から2023年5月31日までのウェブサイト訪問件数は、36,730件で、うち約60%が女性です。愛知、東京の大都市圏を中心に、全国47都道府県すべての地域からのアクセスがありました。

また、女子児童・生徒が、文系・理系の区別や選択を意識する前に、科学技術への関心や理数系の学びへの関心を高めてもらう機会として、工学体験イベント「モノづくりチャレンジ」を2021年度から開始しました。小学3年生～中学3年生の女子児童・生徒を対象とする「プログラミング体験講座」を2021年度から、女子中高生を対象とする「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう」を2022年度から本学を会場として開催しています。

さらに、ウェブサイト訪問やイベント参加をきっかけに芽生えた工学への関心を、その後も抱き続けてもらえるよう、女子学生向けロールモデル集「共に創る未来へII～名古屋工業大学女子学生・女性研究者からのメッセージ」を発行し、サイト訪問者や「モノづくりチャレンジ」参加者に配布しました。

サイト訪問者、イベント参加者のアンケートでは、50%がもともと工学や理系分野に関心があったと回答する一方、約20%が、「以前は関心がなかったが、このサイト・イベントを通して関心を持った」と回答しており、工学や理系進路にこれまで関心がなかった層に対しても、工学分野をアピールできていることが確認できました。

「リカジョ育成賞」の審査では、各取組を連動させて包括的に実施している点、工学や理系進路に関心が高くなかった層にもアピールできているという点が高く評価されました。

ダイバーシティ推進センターは、ウェブサイト、体験イベントともに内容を充実させながら「工学の扉を開こう」を今後も継続し、本取組が広く認知されるように努めてまいります。




女子中高生進路支援

工学の扉を開こう

オンライン公開中





II. 2023年度事業実施報告

1 研究者支援

- (1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞
- (2) 研究支援員制度
- (3) 女性研究者研究促進制度
- (4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援
- (5) 女性研究リーダー養成塾
- (6) ライフイベント支援

2 産学連携による取組

- (1) 女性技術者リーダー養成塾
- (2) 産業論

3 次世代育成

- (1) 次世代萌芽インセンティブ
- (2) 全学に向けたダイバーシティ教育
- (3) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」
- (4) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」
- (5) 女子学生向け夏季オープンキャンパス
- (6) モノづくりチャレンジ「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」
- (7) モノづくりチャレンジ
「プログラミング体験：micro:bitカーリングチャンピオンシップ」
- (8) スーパーサイエンスハイスクール事業への協力

4 情報発信

- (1) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」
- (2) ニュースレター
- (3) メディア掲載

1 研究者支援

(1) 名古屋工業大学女性が拓く未来賞

2023年9月29日、第10回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式が行われました。この賞は、優れた研究業績を挙げることが期待される名古屋工業大学の女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、ダイバーシティの推進に資することを目的としています。

本年度は、優秀賞を徳永透子助教(理工工学系プログラム 材料機能分野)が受賞しました。木下学長より徳永助教に表彰状、トロフィー、副賞が授与されました。



名古屋工業大学女性が拓く未来賞 受賞者の声



徳永透子助教
理工工学系プログラム
材料機能分野

この度は栄誉ある賞をいただきまして、大変光栄に思います。今回の受賞に関しましては、これまでご指導・サポートいただきました、皆さま方に深く御礼申し上げます。

私はこれまで、Fe、Al、MgそしてTiといった様々な金属材料において、軽量、高強度、高耐食性といった複数の機能をあわせ持つ「先進的高機能構造材料」の創製を組織制御により取り組んでまいりました。博士の学位を取得した北海道大学とポーランドのAGH科学技術大学におきましては、上の研究に対して、実験的手法とシミュレーション手法の両方から携わる貴重な機会をいただきました。この経験を活かし、これからも多角的な視点を持って研究に取り組んでいきたいです。

現在名工大3年目となりますが、毎日ワクワクしながら学生の皆さんと一緒に研究活動を楽しんでいます。これまでご指導いただきました皆さまへの感謝を忘れず、そして挑戦を恐れずに、これからも精進していく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻いただけますと幸いです。

(2) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために、十分な研究時間を確保できない教員等に研究支援員を配置することで、生活と研究業務の両立を図るための支援をするものです。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、雇用できるのは、本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む)を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等(教授を除く)で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者



(3) 女性研究者研究促進制度

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数にとどまっています。本学では、この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進のためのインセンティブを付与して研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を2017年度に発足しました。

学内の女性研究者研究促進制度選考委員会の審査により、2023年度は4名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

対象

- ・ 将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、准教授、助教、特任教員、特任研究員、研究員等とする。
- ・ 准教授、助教にあつては、2024年度の学内研究推進経費（戦略的研究、将来を見据えた研究、若手研究）の申請、もしくは、2024年度内の外部資金申請（導入）を前提とした申請であることを条件とする。

採択者の声

高強度・高靱性共晶ハイエントロピー合金の探索

物理工学系プログラム 材料機能分野 助教 徳永透子

本制度の助成を「高強度・高靱性共晶ハイエントロピー合金の探索」研究を進めることに活用させていただきました。本研究は、現在申請者が採択されている科研費の研究に関連する基礎研究として実施したものであり、来年度に新たに科研費に申請予定の研究の研究計画を視野に入れたものです。得られた知見を合金種の異なる他の研究にも応用することができるため、「学内研究推進経費（アクティブ研究支援）」をはじめとする3種の助成金への新規申請を実施することができました。

本助成による研究で得られた知見を外部資金の申請に活かすとともに、競争的外部資金、特に、新たに来年度に申請予定の科研費の獲得に向け、挑戦的な課題の実施可能性を探る目的での予備実験を実施できたことが、本制度を最も有効に活用できた点の一つであると考えています。

実験と機械学習を組み合わせた新規固体電解質の探索

生命・応用化学類 特任教員 武田はやみ

高導電率を持つ酸化物型固体電解質材料であるLiTa₂PO₈ (LTPO) に注目し、その導電率向上に焦点を当てたが、この材料は歴史が浅く、データ解析に困難が生じました。そのため本助成金を利用してディープラーニングを活用した画像解析に関する講習会、先進材料に関する国際学会 Advanced Materials Research Grand Meeting (MRM) 2023 に参加し、関連知識を習得しました。

更に、本材料に関する成果を2023年度公益社団法人日本セラミックス協会東海支部学術発表会で講演し、優秀講演賞を受賞しました。現在は、この知識を活かして、導電率とサンプル微細組織の関係を明らかにする画像解析に取り組んでいます。

7000系アルミニウム合金におけるナノ組織の形成過程解明

物理工学系プログラム 材料機能分野 助教 成田麻未

「7000系アルミニウム合金におけるナノ組織の形成過程解明」の研究について、学内の設備を用いアルミニウム合金中のナノ組織形成挙動の調査を行ってきました。本制度により新たな解析用PCや極低温での試料管理を可能とするフリーザーの導入ができ、実験・研究を深化する環境を整えることができました。それにより得られた成果を元に外部資金への申請を行い、資金援助を得ることができました。

国内学会においても口頭発表を行うことができ、本制度の助成により、着実に研究成果を積み重ねてきました。2024年6月には国際学会での発表も予定しています。投稿論文についても準備を進めています。

気候風土に適応する柔軟な内外境域の設計手法の解明

社会工学系プログラム 建築・デザイン分野 助教 陳擘

本制度の助成により、国際会議への参加、論文投稿、研究に必要なソフトの導入ができ、気候風土に適応する柔軟な建築内外境域の設計手法についての研究を中心に、研究と成果の発信を進めることができました。

内外境界面の可動化、空間の快適性要求の詳細区分、性状逆転可能な材料利用といった3つの大分類が導出され、それぞれの類型に潜在する省エネの思考を検討し、適応地域の差異を考察しました。また、中国の現代建築における気候適応の偶有価値についても考察し、気候に応答する設計を通して現代建築に潜在的な地域性が示していることが分かり、これらの研究成果を論文にまとめて投稿し、研究力の向上・実績の蓄積ができました。

また、オランダのデルフト工科大学で開催した国際会議に参加し、口頭発表と他の国の研究者と交流しました。海外の査読付き論文集への投稿を進め、2篇の英文論文が掲載され、研究成果の国際発信の経験を蓄積しました。

現在、研究での発見をもとに、境界の可変性を考慮して、内外境域と地域の気候風土の関係をより詳細に解明する研究を進めており、来年度は積極的に外部資金を申請する予定です。

(4) 英語論文校正・英語プレゼンテーション支援

本制度は、出産、育児、介護等のために十分な研究時間を確保できない教員等が、英語論文・プレゼンテーション原稿の校正を委託する際にかかる経費を補助することにより、生活と研究業務の両立を図れるよう支援することを目的としています。

一件につき上限を3万円とし、1名につき論文校正・英語プレゼンテーション支援を合わせて年間3件までとします。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む)を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等(教授を除く)で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者



(5) 女性研究リーダー養成塾

研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」

2023年11月15日、女性研究リーダー養成塾 研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」を対面にて開催しました。

電気・機械工学教育類 機械工学分野 田中由浩教授より「研究室運営、経糸と緯糸をどう紡ぐ?」と題して、研究室の企画で大切にしていることと具体的な実践、そして、学生とのコミュニケーション、関係性の築き方で特に意識していることをお話いただきました。教員を中心に13名が参加し、講演の後は活発な質疑応答が行われました。



田中由浩教授

参加者のご意見・ご感想

- ・学生に主体性を持たせる工夫が素晴らしいと思いました。
- ・他学科の研究内容や具体的な運営方法を聞くことができ、有益だった。
- ・大変参考になりました。自分の研究室に具体的に反映させられるヒントをいただきました。
- ・「研究室のマネジメント」について、いろいろ工夫されていることがよく分かりました。今後の取組について本講義を参考にしたいと思いました。
- ・田中先生のお話は非常にわかりやすく具体性があり、非常に参考になった。特に、上級生に責任と自覚を持ってもらう方法として、年度はじめに自分の研究紹介をさせ、将来ビジョンを含めたプレゼンを実施することが有効であるとのことで、これは私の研究室でも実施してみたいと思える案件でした。



日時：2023年11月15日
 講師：電気・機械工学教育類 機械工学分野 田中由浩教授
 会場：対面:11号館2階1121室、オンデマンド
 対象：教員・研究員
 参加者：当日:13名、オンデマンド:29名 合計42名

(6) ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、2015年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために四種類の支援をしています。

① 内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法(2012年法律第65号)第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

補助の内容	サービス利用時に割引券提示で、1枚あたり2,200円の割引が受けられます。 ※利用料金が1回につき使用枚数×2,200円以上のサービスを対象とします。
利用可能枚数	対象児童1人につき1日(回)2枚まで(一か月24枚、一年280枚まで)
利用対象者	本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります)
利用対象となる子供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利用の条件	・利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合 ・出勤簿にて出勤が確認できること ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合 ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

② 大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員(パートタイマーの方は厚生年金の被保険者)への利用料の補助等も行っています。

利用対象者	本学の教職員及び学生
補助の内容	会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。 なお、本学に勤務する教職員(厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む)は、申請により一家庭につき一日(回)あたり700円の補助が受けられます。
利用対象となる子供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利用可能なサービス	・シッタールーム利用 ・シッター派遣(※ベビーシッター派遣事業割引券を利用することはできません)



③ 病児・病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

補助の内容	登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。 <利用料金> 7:00 ~ 9:00 2,150円/時間(税別) 9:00 ~ 18:00 1,950円/時間(税別) 18:00 ~ 19:00 2,150円/時間(税別) ※前営業日18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。 ※最低利用時間は、2時間です。
利用対象者	本学教職員
利用対象となる子供	本学教職員が養育する小学校3年生までの児童
利用の条件	①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気でなく、当面の症状の急変が認められない場合においての一時的な保育 ②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

④ 学会託児サービス利用補助制度

本学教職員・研究員(非常勤含む)が学会大会及び付随する会議に出席するために、その会場等で学会により提供される託児サービスを利用する場合に、託児サービス利用料金の補助をする支援制度です。

支援の内容	学会により提供される託児サービス利用料金の補助が受けられます。
利用上限	補助額は1申請者につき年間1万円を上限とする
利用対象者	本学に勤務する教員・研究員
利用対象となる子供	本学教職員・研究員が養育する小学校6年生までの児童
利用の条件	・学会大会及び付随する会議に出席するために、学会により提供される託児サービスを利用する場合 ・開催日数、出席日数に関わらず、学会あるいは会議への出席1回ごとに1申請とする ・1日につき4時間を超える託児サービス利用を補助対象とする

2. 保育室・一時保育サービス

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには、小規模の保育室があり、育児休業中の職員のセミナー出席や休日出勤する教職員のために一時保育サービスを行っています。

2023年度は、大学入学共通テスト、婦人科検診時に利用がありました。本学で開催される学会やセミナーの際にもご活用いただけます。

2 産学連携による取組

(1) 女性技術者リーダー養成塾

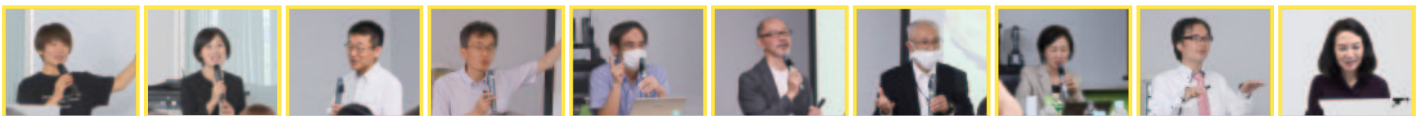
2023年8月30日、ダイバーシティ推進センター主催「第9期 女性技術者リーダー養成塾」を開講しました。

本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、女性技術者がリーダーとして長く活躍し続けるために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供することを目的としています。卒塾式・塾長講演を含め5回の講座を対面にて開催し、県内外企業23社から25名の女性技術者が受講しました。

11月14日には、卒塾式・塾長講演会を名古屋工業大学NITech Hallにて開催し、塾生とその上席者ら50名が参加しました。西岡塾長から塾生一人一人に修了証が授与され、塾生は「リーダーになるための行動宣言」として、本養成塾で学んだことを今後職場でどのように活かし、どんなリーダーになっていきたいのか、1分間でスピーチをしました。

塾長講演会では、株式会社光機械製作所 代表取締役社長 西岡慶子氏(名古屋工業大学客員教授)が「経営に活かすダイバーシティの力」と題して、幸福度の高い職場をつくるためにリーダーとして心がけるべきこと、プロフェッショナルであるために細部まで集中して目を配ることの大切さと、普段から見聞を広め、教養を高めることが困難な時に支えになることをお話しされ、卒塾生にエールを送りました。

「行動宣言」を終えて、塾生からは、「養成塾を通して、リーダー像がしっかりと明確になり、とるべき行動もはっきりと決まりました。」「上長の前で宣言をすることでより気が引き締められました。今後の業務への取り組み方、自身のキャリアについての捉え方を変えるきっかけになりました。」「塾長講演を聞いて、まずは任された今の仕事を自分なりにやりきってみようと感じました。何事も中途半端にするのではなく、小さなことでもやりきってみることをこれからも心がけてやっています。」という感想が寄せられました。



2023年度「第9期女性技術者リーダー養成塾」の実施内容

実施日	内 容	講 師
8月30日	<ul style="list-style-type: none"> 自分とチームを信じてキャリアビジョンを描こう アフターコロナに向けたキャリアラダーの展望と実践 	株式会社eight 代表取締役 鬼木利瑛氏 株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡慶子氏
9月12日	<ul style="list-style-type: none"> 「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える コミュニケーションの基本スキルを考える 「ボカミス」をテーマにものづくりの安全を考える 	愛知工業大学 経営学部 教授(名古屋工業大学 名誉教授) 仁科健氏 名古屋工業大学大学院工学研究科 鷲見克典教授 名古屋工業大学大学院工学研究科 神田幸治准教授
10月3日	<ul style="list-style-type: none"> 製品開発にいかすマーケティング手法 プロジェクト・マネジメント：新しい価値を創造するために ものづくり現場における私らしいリーダーシップスタイル 	愛知東邦大学 経営学部 教授 安藤 真澄氏 名古屋工業大学大学院 工学研究科 北村憲彦教授 トヨタ自動車株式会社 パワートレイン統括部 主査 (名古屋工業大学 特任准教授) 落合清恵氏
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりにおける知財活用の意義 成果を引き出すためのチームビルディングの実践 	名古屋工業大学大学院 工学研究科 伊藤洋介准教授 (日本弁理士会 知的財産経営センター 担当副センター長) 日本アイ・ビー・エム株式会社 常務執行役員 (名古屋工業大学 特任教授) 我妻三佳氏
11月14日	<ul style="list-style-type: none"> 卒塾式・塾生スピーチ「リーダーになるための行動宣言」 塾長講演「経営に活かすダイバーシティの力」 	株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡慶子氏

対象者 : 製造業に勤めている意欲的な女性技術者 参加者 : 企業23社より25名



(2) 産業論

2023年11月27日から12月8日に、工学部第一部2年次後期共通科目「産業論」内で、「ダイバーシティセミナー」を実施しました。この授業は、工学技術者として、産業社会への責任と自分のキャリアについて考える力を養うことを目的とする、2年次の必修科目です。2023年度は940名が受講しました。

生命・応用化学科、情報工学科、社会工学科の講義では、株式会社デンソー OBの鈴木康利氏が登壇し、ご自身が在職時に事業部内で立ち上げたダイバーシティ事業についてお話しされました。女性活躍推進、シニア活躍推進の立ち上げ事例をもとに、実際に事業を進めて行く中で直面した課題についてお話しされ、学生は、示された事例をもとに具体的な障壁や克服方法を考えました。



株式会社デンソー OB 鈴木康利氏

電気・機械工学科、物理工学科の講義では、トヨタ自動車株式会社(名古屋工業大学特任准教授)落合清恵氏(本学電気情報工学専攻修了)が、「大学時代の学び・経験、どう仕事に生きるか」をテーマに、20代から40代までのご自身の担当業務に大学での学びがどのように役立ったか、技術者としてさらにキャリアを発展させていくために必要な視点や行動についてお話しされました。



トヨタ自動車株式会社 落合清恵氏
(本学特任准教授・OG)

学生にとって、ものづくりにおける多様な視点の価値を深く学び、学生時代の今、自分自身が将来に向けてどのようなアクションを起こしていくことが必要かを深く考える機会となりました。

日時 : 2023年11月27日～12月8日
講師 : 株式会社デンソー OB 鈴木康利氏
トヨタ自動車株式会社 パワートレーン統括部 主査(本学 特任准教授) 落合清恵氏
対象 : 工学部第一部2年

3

次世代育成

(1) 次世代萌芽インセンティブ

学部から大学院博士前期課程への女子学生の進学者に比べて、将来の女性研究者候補である大学院博士後期課程への進学者は、極めて少ないのが現状です。工学分野のダイバーシティ推進のためには、博士後期課程への進学を支援することが急務であると考え、女子大学院生の研究キャリアのスタートを支援する「次世代萌芽インセンティブ制度」を2018年度に発足しました。2023年度は、2名の大学院生が採択され、国際会議で研究成果を発表しました。

対象

- (1) 博士前期課程2年在学中の女子大学院生で、本学大学院博士後期課程への進学が決定している者。
- (2) 博士後期課程在学中の女子大学院生。ただし、スタートアップ助教を除く。

採択者の声

社会工学専攻 建築・デザイン分野 博士後期課程3年 木村正子

2023年4月11から16日まで、フランス共和国マイエンヌ県ラバル市にて開催されましたヨーロッパ最大のVRコンペティションLaval Virtual 2023の# REVOLUTION #RESEARCH部門にて採択率約30%、申請国約37カ国の狭き門に選出され、デモ展示発表を行ってきました。展示期間5日間で来場者は合計約1万人でした。

発表デモ作品「Inclusive Quiet Room -for building an inclusive society-」は、作者ら自身が抱えている感覚過敏をテクノロジーを用いて補助し、社会の中で障害を抱えていても生き易くできるようにと願いを込めて制作したプロダクトです。

本研究の結果について、4月12日にAwardが発表され、Laval Virtual 2023にてWinnerとなり、SIGGRAPH AWARDを受賞致しました。本作品はコンピュータグラフィックス・テクノロジーの世界最高峰の国際学会であるSIGGRAPH 2023, Emerging Technology (採択率 約20%、IF = 8.0) へ招聘作品となり、今夏にアメリカ・ロサンゼルスにて展示発表が内定しました。

本研究発表にご支援いただきましたこと、心より感謝いたします。今後も日々研究に励み次回研究発表も力の限りで精進いたします。ありがとうございました。

生命・応用化学専攻 博士前期課程2年 犬飼紫乃

2024年3月に、イタリアのルッカで行われたゴードンセミナー (Gordon Research Seminar) およびゴードン会議 (Gordon Research Conference) と、シエナで開催されたシンポジウム (The 1st Mini Symposium on Light-controlled Photoresponsive Protein) に参加しました。

ゴードン会議では、私は、「クラゲロドプシンの光反応中間体の分光解析」という題目でポスター発表をしました。クラゲロドプシンの分子進化を構造学的に明らかにすることを目指す本研究に、世界的に著名なロドプシン研究者が関心を示し、深いディスカッションを通じて多くのご助言をいただくこともできました。

その後、ロドプシンの量子化学計算で世界を牽引するシエナ大学Olivucci教授主催のシンポジウムにて招待講演の機会をいただき、「光感受性Gsタンパク質共役受容体、クラゲロドプシンの光反応プロセスにおける分光研究」という題目で発表しました。国外でのオーラル発表は初めての機会でしたが、堂々と発表することができました。

本制度の支援により、これまでにない貴重な経験をさせていただけましたこと、お礼申し上げます。今後ますます研究活動に邁進し、本研究をさらに発展させていく所存です。



(2) 全学に向けたダイバーシティ教育

本学では、ダイバーシティ推進、男女共同参画をテーマとする授業を学部・大学院で正課科目として開講しています。ダイバーシティ推進センター教員が担当し、次世代を担う技術者として弁えるべきジェンダー平等の意識や多様な文化への配慮について、実例をもとに深く考察する機会を設けています。

■ダイバーシティ概論（共通科目3年次前期）

「ダイバーシティ概論」は、人の多様性に対する素養と実践力を備えた人材養成を目的とする授業で、アクティブラーニングを多く取り入れています。授業内課題として、ダイバーシティにまつわるコンフリクトをテーマにディスカッションやプレゼンテーションを実施し、ダイバーシティ・マネジメントの基礎知識を身につけるとともに、他者と協力してディスカッションを運営する力、説得力のあるプレゼンテーションを行う力を同時に養いました。キャリア形成をテーマとする回では、講師に、株式会社デンソー勤務でキャリアコンサルタントでもある杉浦真紀子氏、トヨタ自動車株式会社パワートレーン統括部主査（名古屋工業大学特任准教授）落合清恵氏を迎え、ライフステージとキャリアの多様性についてディスカッションを行いました。

■男女共同参画社会論（共通科目2年次後期）

「男女共同参画社会論」では、現代社会における性別をめぐる諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうしたら男女共同参画社会を実現できるのかを考察します。ジェンダー論の基礎、家族関係、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、教育システム、労働環境、社会政策における諸問題を国際比較も含めて学び、性別にかかわらず個人の人権が尊重される社会の在り方を考察しています。2023年度は、トヨタ自動車株式会社パワートレーン統括部主査（名古屋工業大学特任准教授）落合清恵氏、株式会社デンソー電子システム技術部杉浦真紀子氏をゲスト講師に迎え、ものづくり企業における男女共同参画の課題、キャリア形成について意見交換をする機会を設けました。

■ダイバーシティ社会論A・ダイバーシティ社会論B（大学院共通科目）

「ダイバーシティ社会論A・ダイバーシティ社会論B」は大学院博士前期課程の共通科目です。2020年度から2022年度まではオンデマンドのみで開講されてきましたが、2023年度は全回対面での実施となりました。

授業では、分離と格差、対立、他者理解、ジェンダード・イノベーション、ダイバーシティ・マネジメントを主題とする英語文献を読み、各回、受講生が内容を報告しました。個人や小集団におけるダイバーシティに関わる現象や影響を分析するための視点を身につけ、各授業の後半では、テーマに沿って日常的に観察される現象を引きながらディスカッションを行いました。

(3) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

1. 女性同窓会「鶴桜会」

鶴桜会は、「年に一回会いましょう」を合い言葉に、女性卒業生や現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場として2016年に設立した女性同窓会です。

2023年10月21日、第7回年次交流会を開催しました。本年は、新しく改修された2号館11階ラウンジにて対面の昼食交流会を開催し、OGや現役女子学生など計32名が参加しました。

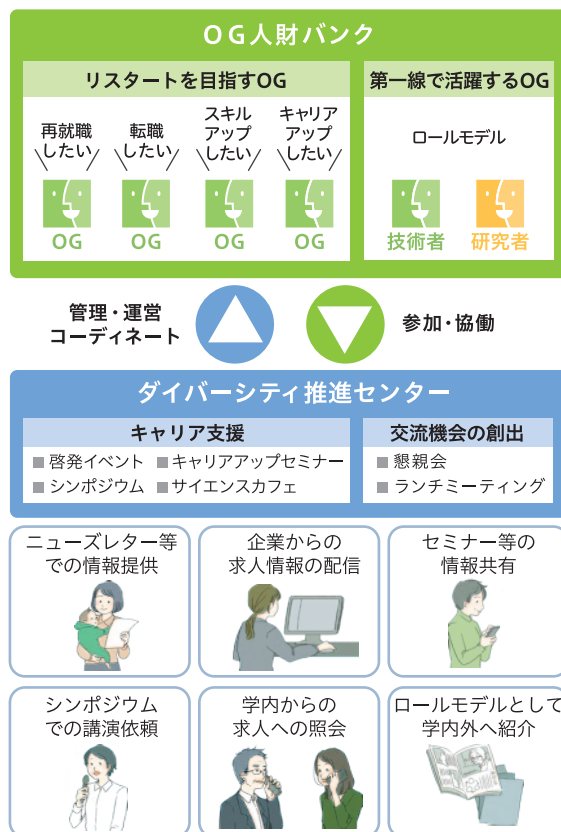
はじめに、本学同窓会「名古屋工業会」横山理事長のご挨拶と乾杯のご発声で交流会がスタートし、鶴桜会会長の武藤敦子准教授より挨拶と総会が行われました。その後、鶴桜会会員である中部電力ミライズ株式会社の石川民子執行役員によるミニ講演、参加者全員の自己紹介が行われ、参加者同士が世代を超えて親睦を深めました。

これからも世代や専門分野を超えて「名工大で学んだ女性」という新しい繋がりによる交流コミュニティとして、毎年10月に昼食交流会を開催予定です。



2. 「OG人財バンク」

2014年に発足した「OG人財バンク」は、ライフイベント等で社会の第一線から退いた本学OGを研究支援員として起用することで、専門性を活かした高度な支援を女性研究者に提供すると同時に、支援員となる本学OGにも再チャレンジのきっかけを提供するという、双方にメリットのある仕組みとして考案されました。現在では、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めた全ての本学OGを登録対象とし、学内外からのさまざまな要望に応えられる工学系女性人財の情報バンクに成長しています。例えば、ご登録情報に基づいて、実務型教員として母校の教壇に立っていただく、あるいはロールモデルとして学内外のイベントにご協力いただくなど様々な活用実績があります。今後は、全てのOGの皆様それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者の人財情報共有コミュニティとして成長させていきたいと考えています。





(4) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」

女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。理系女子のキャリアを考えるイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。



2023年度メンバー：合計63人

【学年別】 M2：6人 M1：3人

B4：8人 B3：6人 B2：20人 B1：20人

【学科別】

生命・応用化学専攻・学科：22人 電気・機械工学専攻・学科：27人

物理工学専攻・学科：1人 情報工学専攻・学科：5人

社会工学専攻・学科：2人 創造工学教育課程：6人

【活動内容】

＜リケ女子会＞

企業で活躍する女性エンジニアの方と交流する機会を設けることで、ロールモデルとなるような人と出会い、エンジニアとして働くことと企業への理解を深める。

参加学生：62名

参加企業：(株)アイシン、アピ(株)、アンリツ(株)、イビデン(株)、(株)小松製作所、ソニーグループ(株)、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)、(株)デンソー、(株)トヨタシステムズ、(株)豊田自動織機 IT ソリューションズ、日本ガイシ(株)、日本特殊陶業(株)、本田技研工業(株)、ヤマハ発動機(株)、(株)LIXIL、リンナイ(株) (五十音順・敬称略)

(5) 女子学生向け夏季オープンキャンパス

2023年8月1日、オープンキャンパスにて、名工大の女子在學生と女子学生団体彩綾～SAYA～の協力のもと、座談会形式の女子学生向けの相談会を開催しました。学科ごとに女子学生が各1名ずつ8つのグループに分かれ、本学女子学生を囲む座談会が行われました。名工大の女子学生の割合や一般・推薦入試の受験対策、希望学科の特徴、学生生活、就職先などについて、参加者から多くの質問が寄せられ、女子学生が自身の経験談を伝えて回答していました。

それぞれ30分程度で開催された座談会には、1回目34名、2回目33名の合計67名が参加しました。参加者からは、限られた時間内でしたがとても参考になったと大変好評でした。



13時10分～と14時10分～の2回開催
写真は13時10分～の座談会の様子

日時：2023年8月1日 13:00～15:00

会場：2号館 11階ラウンジ(座談会形式の相談会)

参加者：1回目34名、2回目33名

(6) モノづくりチャレンジ「3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」

第3回開催

2023年7月29日、工学進路選択支援イベント「工学の扉を開こう」特別企画として、女子中高生を対象に「第3回 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」を開催しました。中学1年生から高校1年生までの17名が参加し、アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏(本学OG)の指導のもと、ものづくりの発案から設計までを体験しました。



アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏

本イベントは3部構成で行われ、第1部の野田氏による講義では、CPS(サイバーフィジカルシステム)や3Dプリンターの歴史や仕組みについて学び、第2部では、3D CADの基本操作について、野田氏がスクリーンに示す操作を参加者も同時に操作しながら学習しました。第3部では、事前に参加者が提出したグッズのデザインをもとに、3Dプリンターの特性を考えながら設計していきます。作りたいグッズの形をより明確にイメージして、寸法も考えてデザインを修正した後、紙に鉛筆で描いたものをデジタルに作り替えていく作業を、学生サポーターに相談しながら着々と進め、最後には、全員が思い描いたオリジナルグッズの設計を完成させることができました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者から、「難しかったけど、自分でいろんなものを設計するのが楽しかったです。」「3Dプリンターでものを作ることが初めてでとても良い体験ができました。また、このような講座があったら行きたいと思いました。」という感想が寄せられました。参加者の殆どが、3D CADを使った経験がなく、講座のレベルを

「難しい」、「やや難しい」と答えた方が7割程でしたが、難しかったこと・興味深かったことを各自の視点でとらえ、ものづくり体験を通して工学にふれる機会となりました。



第4回開催

2023年12月16日、第4回を開催し、中高校生までの15名が参加し、アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏(本学OG)を講師に迎え、チーフアシスタント:足田啓悟氏の指導のもと、ものづくりの発案から3D CADでの設計までを体験しました。



ほとんどの参加者が3D CADに触れるのは初めてでしたが、サポートの学生に相談しながら、着々と自分のイメージを形にしていき、全員が思い描いたオリジナルグッズの設計を完成させることができました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者から、「このような体験をするのが初めてだったので少し難しかったけど、自分のオリジナルを作ることができて面白かったです。」「操作に慣れてだんだんと自分の作りたいものに近づいていくことが興味深かったです。」「実際に作品を作っていくと思ったよりもだめなところがあって、それを直していくのが楽しかったです。最初の6Gとかの世界のお話も面白かったです。」という感想が寄せられました。



講師：アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏
会場：11号館 2階CAD室
対象：中学1年生～高校1年生の女子

第3回

2023年7月29日
参加者：17名

第4回

2023年12月16日
参加者：15名



(7) モノづくりチャレンジ「プログラミング体験: micro:bitカーリングチャンピオンシップ」

第3回開催

2024年3月20日、小学校5年生から中学3年生までの女子児童・生徒を対象に、モノづくりチャレンジ「カーリングロボットをプログラミングしてチームで対戦!」を本学NITechホール2階 ラーニング・コモンズLI:NCsにて開催しました。小中学生24名が参加し、micro:bitを使ったプログラミングと、カーリングロボットを使った対戦ゲームに挑みました。

冒頭で、加野泉ダイバーシティ推進センター准教授より、工学分野とその先の進路について紹介があり、その後サポーターとして参加した女子学生が自己紹介し、工学分野で学ぶ楽しさをお話しました。

プログラミング講座は、株式会社プロキッズにより進行されました。4人で一つのチームになり、最初はmicro:bitに自分の名前を表示させたり、チームの名前を決め、そのアイコンを表示させる基本的なコマンドを学びました。学生サポーターの的確なアドバイスもあり、皆、順調に操作を自分のものにしていきます。

コマンド作成に慣れたところで、カーリングロボットに搭載するコマンド操作に取り組みました。まっすぐ走る、左に向く、右に向く、などの単純なコマンドを作り、実際にカーリングコートの上で走らせてみます。コートの幅や大きさ、ハウスの位置に合わせて、勝てるロボットにするにはどうしたら良いのかな、と思考を巡らせます。

試行錯誤を重ねた後、いよいよカーリングマッチが開始。1回3ゲームを3回戦まで戦いました。いざ戦って見ると、良いポジションにつけてもすぐに相手に弾き出されてしまったり、他のロボットに接触後、自分のロボットの向きが変わってコートからはみ出してしまうと、なかなか思うようにいかないことがわかります。1回戦が終わった後は、各チーム、ルートの見直し、戦略の立て直しを行いました。2回戦では、1回戦の経験を生かして、各チームから複雑な技が次々と繰り出され、戦いは白熱しました。そして、迎えた3回戦では、チームでの戦略会議も活発になり、手に汗握る好戦となりました。

3回戦を終えた後、優勝チームが発表され、表彰式が行われました。総合で6点を獲得したチームCが優勝し、チームの一人一人に表彰状が授与されました。

長時間のイベントになりましたが、自分が戦略を考えてプログラムしたものを使って、チームで対戦ができるということで、参加者同士の話し合いも活発で、会場は和やかな雰囲気ながらも大いに盛り上がりました。



日時：2024年3月20日 13:30～17:00
講師：株式会社プロキッズ
会場：NITech Hall 2階 ラーニング・コモンズLI:NCs
対象：小学5年生～中学3年生の女子児童・生徒

小学生 9名
中学生 15名

合計：24名参加



(8) スーパーサイエンスハイスクール事業への協力

2023年8月7日(月) 愛知県立一宮高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「女性科学者のたまご育成プロジェクト」の取組の一環として「ラボビジ」を本学にて開催し、愛知県内の22名の学生(高校生21名、中学生1名)が参加しました。

ダイバーシティ推進センター 副センター長 武藤敦子准教授による大学紹介・工学分野の女性活躍・ダイバーシティ推進についてのお話の後、在学生の代表として名工大女子学生団体彩綾～SAYA～4名が自己紹介を行いました。続いて、彼女たちの案内のもとグループに分かれて構内を見学しました。

「ラボビジ」のメインとなる研究室見学では、電気・機械工学系プログラム機械工学分野 医用生体工学研究室を訪問し、二人の研究者の講義を受けました。はじめに氏原嘉洋准教授が「医師も知らない!心臓の美しさとなやかさを機械工学から解き明かす!」と題して、医用工学分野の研究内容を中心に、研究者としてのこれまでの道のりや生活の様子なども含めてお話しされました。次に、伊藤愛助教(博士後期課程2年)が、「好奇心をエンジンに～脊椎動物の心臓進化に心惹かれて～」と題して、進路選択に関するご自身の経験談を中心にお話しされました。

講義後には実際に研究室に入り、先生方から研究や機器の説明を受けて、医用工学研究への理解を深めました。最後に、「ラボビジ」の締めくくりとして、彩綾の在学生との座談会が行われ、受験勉強、大学での学生生活や研究について在学生の率直な生の声を聞きました。

4 情報発信

(1) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」

2024年3月、女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」で、新たな動画を公開しました。電気・機械工学科の学びと研究を紹介する内容で、機械工学分野医用生体工学研究室の氏原嘉洋准教授に研究内容、研究室、学生指導についてお話しいただきました。

医用生体工学研究室所属の大学院生、学部生も登場し、研究の面白さや研究環境を紹介しました。博士後期課程2年で、スタートアップ助教でもある伊藤愛さんは、自身の研究の魅力と、本学独自の若手女性研究者支援制度「スタートアップ助教」を紹介し、これから進路を考える女子学生に向けて支援制度の充実も伝えました。

本サイトは、女子中高生を対象に工学部での学びやその魅力、将来のどのような職や研究につながっていくのかを具体的に伝え、次世代を担う多くの女子学生に工学分野への関心を高めていただくことを目的として、常時公開しています。今後も継続してコンテンツを充実させ、工学の幅広い可能性を伝えていきます。



追加動画コンテンツ内容

▶電気・機械工学科の学びと研究紹介



機械工学分野医用生体工学研究室
氏原嘉洋准教授

▶研究の魅力と若手女性研究者支援制度「スタートアップ助教」紹介



博士後期課程2年、スタートアップ助教
伊藤愛さん



(2) ニュースレター

ダイバーシティ推進センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを2023年9月、2024年3月にPDF発行しました。



(3) メディア掲載

- 2023年 6月22日 毎日新聞朝刊21面 本学主催「女性技術者リーダー養成塾の受講者募集」の記事が掲載されました。
- 2023年 7月22日 中日新聞中日こどもWEEKLY 3面 「NEWS 虫めがね 男女平等の順位日本は125位」の中で加野泉准教授の解説が掲載されました。
- 2024年 3月 8日 中日新聞朝刊1面、及び中日新聞Webにて 「【国際女性デー】ジェンダー・ギャップ指数、中部地方は経済分野で下位続く」のなかで、加野泉准教授の解説が掲載されました。

名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター
2023年度 事業報告書

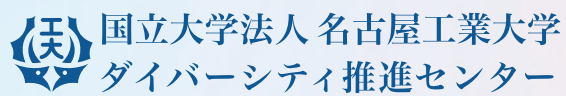
発行：国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

E-MAIL：diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL：https://diversity.web.nitech.ac.jp/

2024年3月発行



〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL/FAX: 052-735-5121

E-mail: diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

U R L: <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>